

2013. 1【vol.31】

# 水レター「びわ湖・よど川」

独立行政法人水資源機構 関西支社 発行

あけましておめでとうございます。

平成25年第1号の水レター「びわ湖・よど川」を発行いたします。  
水資源機構全体の取り組みや関西支社管内における情報のほか、琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を、水レター「びわ湖・よど川」により、関係機関の皆様にお知らせします。

## index

- |                                       |                     |     |
|---------------------------------------|---------------------|-----|
| 1. 新年を迎えて                             | ーレジリエントな国土創りの一環としてー | 1 p |
| 2. 関西支社管内の気象及び水源状況                    |                     | 2 p |
| 3. 「府民の森ひよし森林倶楽部」が「京都水づくり賞」を受賞        |                     | 3 p |
| 4. 大阪広域水道企業団主催の駅伝大会、大盛況！！             |                     | 4 p |
| 5. 今年の抱負を語る                           |                     | 5 p |
| 6. 水源地マラソン紀行(その7)                     |                     | 7 p |
| 7. 『仕事への取り組み方等のキャッチフレーズ(関西いろはカルタ)』の紹介 |                     | 8 p |

編集後記



水がささえる豊かな社会



独立行政法人 水資源機構

# 1. 新年を迎えて

## －レジリエントな国土創りの一環として－

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

利水ユーザーならびに関係機関の皆様には、旧年中は独立行政法人水資源機構に格別のご支援ご協力を賜り誠にありがとうございました。

水資源機構関西支社では、川上ダム、丹生ダムの建設事業と高山ダム、日吉ダム等の7ダムと琵琶湖開発施設等の合計10の施設の管理運営を通して、琵琶湖淀川流域での用水の安定的な供給と治水対策等に日々努めさせていただいております。

今年2013年は、巳（み）年です。2013年の十干（じっかん）は「癸（みずのと）」、十二支（じゅうにし）は「巳」なので、干支（えと）は「癸巳（みずのとみ、キシ）」の年です。癸は十干の最後の10番目、巳は十二支の6番目です。干支は、十干と十二支の組み合わせ（60年サイクル）ですので、癸巳は六十干支の30番目です。

東洋学の泰斗、安岡正篤の教える干支学では、今年、「癸巳」の年は以下のように占われます。

まず、「癸」は上下、軽重、長短、大小を「はかる」という意味を持つ。物事には基準、標準があり万事に原則、法則がある。公のために筋道を立て、是に則り思考行動することを癸の字は教えています。また、癸は十干の最終ランナーとして重要な役目を担っております。

一方、「巳」は動物の象形文字で蛇の形を表す、故に「今まで冬眠していた蛇が春の陽気に地上にはい出し、新たな生活に入る」との意で、「因習的な生活から抜け出て、積極的弾力的に物事を推進していくこと」を示しているとのことです。

そこで、「癸巳」の干支が教えるところの今年は、これまでの10年間の総決算の年であり、特に前2年に内在し発生した問題がどんどん表面化して活発な行動を始める。そして、「基準、原則に則り、筋道を立てて思考、行動して、障害や摩擦、抵抗にあっても因循姑息な生き方ではなく、公を主体とし進取改革に取り組むこと」が求められる年です。

ところで、昨今気象変動が極めて大きくなってきていることに起因しての大洪水が頻発しております。大洪水といずれ必ず起こる異常渇水に対して未だ万全の備えがあるとは言えず、水を溜める装置の柔軟な整備運用に努める必要があります。

洪水調節と命の水を補給する治水、利水という相反する目的を見事にバランスさせるのがダムですが、ダムの適地には限りがあるため、既設ダムの長寿命化やダム群の再編成にも取り組まなければならない時に来ております。

このことは、貴重なダム等の容量をより柔軟かつしなやかで強い持続可能な状態に整備することであり、いわゆる「国土のレジリエント化」に該当します。

国土学アナリストの大石久和氏は、「レジリエントな国土の第一は、国土全体を自由に使える状態に近づけるということである」と述べておられます。このことを、琵琶湖・淀川水系での水における危機管理に置き換えれば、次のように考えることが出来ます。

まず、木津川、桂川、琵琶湖・宇治川でのそれぞれの貯水容量が出来るだけ大きく確保され、それぞれの川筋の間で互いに補完できる関係にすること、さらに同じ川筋内にも柔軟に相互運用可能な状態にすることです。

具体的には、淀川水系河川整備計画において川上ダムでは、木津川の既設ダムの長寿命化対策として堆砂除去のための代替え容量を確保する計画となっております。当然の事ながらこの容量は木津川の既設ダム群の長寿命化、つまり持続可能性を高めるだけでなく、琵琶湖・淀川水系全体で計画規模を超える大洪水や異常渇水が発生した時の備え、さらに災害時の施設補修等の緊急措置をとることが可能となるなど極めて貴重な容量となり得ます。

「遠きを謀る者は富み 近きを謀る者は貧す それ遠きを謀る者は 百年のために松杉の苗を植う」

この二宮尊徳の言葉は、100年、200年の長期的視点での社会資本整備の重要性を教えてくれています。

琵琶湖・淀川水系を全体的かつ長期的視点で見通した「しなやかで強い持続的な国土形成」つまり「国土のレジリエント化」の視点から、流域の共同資産となるダムを柔軟に整備し的確に管理していくことが私たち水資源機構に与えられた使命と考えております。

本年も、独立行政法人水資源機構へのさらなるご理解とご支援を頂けますように宜しく願い申し上げます。

平成二十五年 癸巳正月

水資源機構 関西支社長  
原 稔 明

## 2. 関西支社管内の気象および水源状況

昨年12月は、中旬および下旬にまとまった降雨があったため、関西支社管内の全ての水源において、月間の降水量が平年値を上回り、各水源（各ダム）の流況は安定した状況でした。

高山ダムおよび日吉ダムでは、12月上旬に平常時最高貯水位付近に達し、この水位を維持しています。また、青蓮寺ダムの貯水位も、10月末に平常時最高貯水位付近に達してから、引き続き水位を維持しています。

昨年（平成24年）における各水源の降雨量は、日吉ダムを除いて、平年値を上回りました。なお、9月に発生した台風17号の降雨により、高山ダム、青蓮寺ダム、布目ダム、比奈知ダム、日吉ダムで防災操作を実施しましたが、1年を通して、関西支社管内の各水源は、比較的安定した流況でした。

### ～ 水資源機構(関西支社管内)の水源状況 ～

平成25年1月1日 9:00現在

施設名	貯水位(標高. m)	貯水量(万m <sup>3</sup> )	貯水率(%) <sup>※2</sup>	降水量(mm) <sup>※3</sup>	
				(観測値)	(平年値)
高山ダム	133.07	4,437	90.2	82	49
青蓮寺ダム	276.77	1,890	98.9	77	47
室生ダム	292.66	1,068	80.3	100	51
布目ダム	283.23	1,205	94.9	74	55
比奈知ダム	300.52	1,495	97.7	76	43
一庫ダム	144.72	2,197	82.0	80	43
日吉ダム	191.02	3,530	98.1	67	50
琵琶湖	B.S.L. +3cm <sup>※1</sup>	—	—	153.1	115
7ダム 合計	—	15,822	89.8%	—	—

※1 琵琶湖水位は、1月1日 6:00の水位を表示しています。

※2 貯水率は、10月16日より非洪水期の利水容量で計算しています。

※3 降水量については、12月1日～31日までの累計値で、

琵琶湖は流域平均雨量、各ダムはダム地点降水量を表示しています。

水資源機構の関西支社管内における各ダムの貯水状況は、関西支社ホームページの水源情報に掲載しております。

<http://www.water.go.jp/kansai/kansai/html/suigen/suigen.html>

### 3. 「府民の森ひよし森林倶楽部」が「京都水づくり賞」を受賞

12月9日、京都府総合見本市会館において、平成24年度の「京都府水宣言記念・京都水づくり賞」(京都府)の表彰式が行われ、日吉ダム貯水池に隣接する「府民の森ひよし」を拠点に活動を繰り広げている同森林倶楽部が受賞しました。

この賞は、京都で開催された「第3回世界水フォーラム」(平成15年3月)の成果や「京都水宣言」の趣旨を踏まえて設けられたもので、平成15年度から流域の水環境保全等、水に関わる優れた活動を行っている個人・団体が表彰されています。平成21年度には、日吉ダムの水没集落のあかりを湖面に点すアート活動などを行っている「天若湖アートプロジェクト」実行委員会も受賞。

今回は10回目の記念として、公益財団法人リバーフロント研究所代表理事の竹村公太郎氏による基調講演が開催され、また、ミス日本「水の天使」酒井美帆さんを交えたワークショップが行われました。さらに、竹村氏に代わって世界水フォーラムへ出席したお話しも酒井さんから伺いました。

「府民の森ひよし」は、ダム貯水池に隣接しており、128haの広大な森林公園で、日吉ダムの「地域に開かれたダム」の構成施設の一つです。公園内には、広場や散策路、キャビンやテントデッキなどのキャンプ施設と、資料館や研修館などの学習施設などがあり、府民が森林についての理解を深め、森林での多様な体験・活動などを通じて、自然と触れ合う場として整備され、多くの方に利用されています。

同倶楽部は、ここ「府民の森ひよし」を拠点に、ボランティア活動として、長年、府民の森や貯水池周辺の森林等の保全活動等を行っています。主な活動としては、府民の森でのイベント支援や植生調査、安全・技術講習会、遊歩道等の設置・整備、貯水池周辺の間伐材を利用した木炭・竹炭・薪作り、樹木の植林など。

今回、長年にわたるボランティア活動が、森林整備等を通じて、水源地域や森林の保全等に取り組み、また、水環境の保全と森を守っていくことの大切さを啓発するなどして大きく貢献したとして評価されたものです。今後の一層の活動を期待します。

(日吉ダム管理所)



平成24年度「京都水宣言記念・京都水づくり賞」表彰式(於:京都府総合見本市会館)

※写真は、京都府より提供

## 4. 大阪広域水道企業団主催の駅伝大会、大盛況！！

大阪広域水道企業団は、企業団職員と構成市町村の水道関係者との相互の親睦と健康増進を図るため、平成24年12月8日（土）に堺市の大泉緑地において第3回の駅伝大会を開催いたしました。本駅伝大会は、平成22年から始まり、競技の部36チーム、親睦の部18チームの参加があり、昨年よりチーム数も大幅に増えて、約300名の選手達が集いました。また、選手の家族や職場の方々が応援に訪れ、阪神水道企業団チームの飛び入りもあり、大変盛り上がった大会でした。

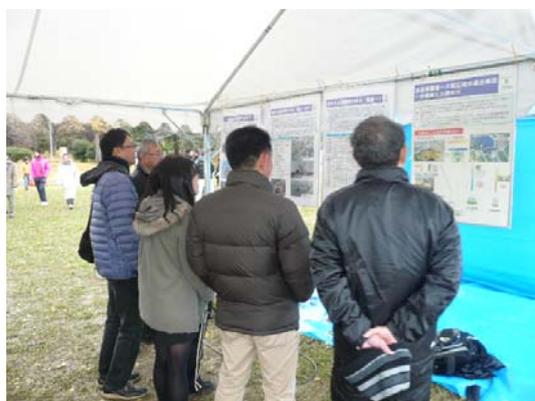
大会の運営は、企業団の有志の方々により業務外で、準備から設営、協議の運営が行われ、水資源機構関西支社は大会運営に微力ながら協力させていただき、併せて競技の部に参加するとともに、水源施設についてPRさせていただきました。

当日の午前中は、小雨がぱらつく中、時折吹き付ける強風にも耐えながら、テント張りなどの準備・設営を行っておりましたが、午後になると何とか天気も持ち直して、準備体操が始まった頃には、雨もあがっておりました。しっかり準備体操した後、第1区を走るランナーがスタートラインに並び、号砲を合図に一齐にスタートが切られました。

さあ、競技の部3km×5周、親睦の部3km×3週の競技が始まりました。競技の部では、寒さを吹き飛ばすような熱戦が繰り広げられ、大接戦の結果、池田市上下水道部の池メンズAチームが、1時間1分12秒という好タイムで優勝しました。ちなみに、我が水資源機構関西支社チームは、力走の結果、1時間8分27秒でした。また、親睦の部では、各チームでは趣向をこらした襷や着ぐるみ衣装などを纏って大会を盛り上げていただきました。

大会運営をボランティアであたられた企業団の職員の皆様、お疲れ様でした。来年は良い天気で、なお一層多くの皆様が参加されることをお祈りしています。

（関西支社 利水者サービス課）



水道事業者へ水機構業務をPR



号砲を合図に一齐にスタートをきる第一走者

## 5. 今年の抱負を語る！

新年を迎えたこともあり、気持ちも新たに、今年も一年頑張ろう！  
…ということで、ありきたりではありますが、

今年初の水レターでは、水資源機構関西管内に勤務する年男<sup>としおとこ</sup>たちに“今年の抱負”を語ってもらいました。

### ■矢野 則弘（関西支社 事業部 計画課）

新年明けましておめでとうございます。  
皆さんお正月休みで心も体もリフレッシュされたことと思います。

早速ですが、「水レター」の担当者から、年男に今年の抱負をお願いされ、気がつくとも早、4回目の年男となっていました。  
今年の抱負を考えましたが、巳年は転機の年と言われているそうなので、  
”心機一転これまで出来なかったことにチャレンジする”、  
”長く続けられる趣味を見つける” を抱負に1年間頑張ります。  
（具体的な内容が無いですが、年末に成果を発表出来れば・・・）

また、「良い仕事」をするためには、職員同士の縦の連絡、横との連携を心がけやっていきたいと思っています。  
水資源機構関西支社「チームワーク力を大切に」を合い言葉に頑張って行きますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

#### 【プロフィール】

兵庫県出身・関西支社2年目



### ■敷根 康文（川上ダム建設所 第一用地課）

初めての単身赴任、初めての関西の地で思うこと。

- ① しっかりと地に足をつけて、まず友達作りから！
- ② きもちは熱く！行動は法令遵守、冷静沈着、品行方正！
- ③ ねがいは、漁業補償の早期解決！
- ④ やがて終わるダム検証、そして求められるロケットスタート！
- ⑤ すぐには難し、用地問題！
- ⑥ ふくつの精神で、耐え難きを耐え！忍び難きを忍び！
- ⑦ みらいを、明るく！楽しく！

#### 【プロフィール】

鹿児島県出身の無口な九州男児。趣味は人付き合い。  
寒い、名張の冬はとにかく寒い。懐も寒い。  
静かに春（異動）が来るのを待っています。



■砂野 洋一（川上ダム建設所 工務課）

年男として今年の抱負と言われて、干支なんか年賀状の図柄を考えると気にする程度なので、そうだったのかと思ったところで、チョット、ググって\*みると、なんと、厄年に該当する年齢でもあるとか。調べなければ良かった・・・。今年、チャレンジウォーキングで完歩を目指すとか、以前よりいろいろとやってみたいなと思っていたことに挑戦していこうかと、思っているところですが、厄年だ！と、思うことにならないようにしたいです。



※「ググる《俗語》」: Google で検索すること

【プロフィール】

みかん県出身。最近、人から年齢不詳(よく分からない)といわれることが多いです。

■小島 啓知（琵琶湖開発総合管理所 湖南管理所）

昨年4月に外向先（鉄道機構）から復職しました。琵琶湖は2回目の勤務、しかも同じ湖南管理所ということで、何か運命めいたものを感じております。景色は全く変わっていませんが、とりまく情勢は日々変化しています。この流れに慌てふためくことのないよう、（せっかく減った体重が増えないよう）日々精進したいと考えております。本年も何とぞよろしくお願いいたします。



【プロフィール】

愛知県出身。昭和40年生まれ、昭和63年入社のおっサンです。

■藤本 生<sup>せい</sup>（木津川ダム総合管理所 布目ダム管理所）

2年前に結婚してから、体重が右肩上がりでお悩んでおりました。しかし、1年前に布目ダム勤務となってからはどんどん痩せ細り、気付けば7kgも減量しておりました。倒れない程度にお仕事がんばります！



【プロフィール】

平成22年4月より土木職から機械職へ人事交流となり、もうすぐ3年になろうとしています。多くの方々に支えられ、日々業務を遂行しております（感謝！）

■別府 博幸（日吉ダム管理所）

日吉ダム管理所に勤務して、3年間、幸いにも大きな災害もありませんでしたが、いつ災害が起こっても大丈夫なように、ダム管理に努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。また、今年は健康に気をつけ、12月に購入した自転車に乗って、お腹まわりを少しでもスリムにしたいと思っています。



【プロフィール】

鹿児島県出身。昭和60年に公団入社。最初の勤務先は、今と同じ日吉ダム建設所で、9番目の勤務先です。

## 6. 水源地マラソン紀行 (その7)

明けましておめでとうございます。この原稿を書いている時期は年末であります。日ごとに寒さが厳しくなり、先週末（12月上旬）1時間半くらい自宅近くの公園を走りましたが、さすがに汗かきの私でも体が冷えてしまいます。

12月に入るとマラソン大会の他にも駅伝大会も各地で開催され、本格的なランニングシーズンの到来です。年末には全国高校駅伝、お正月にはニューイヤー駅伝、箱根駅伝などの放送が楽しみです。

さて、12月は布目ダムマラソン、大阪広域水道企業団市町村駅伝大会に出場しました。企業団駅伝大会はダムを走る男に挑んでわずか11秒差で負けた高橋君が記事を書きますので、今回は布目ダムマラソンをご紹介します。

布目ダムマラソン大会は、ダム完成を祈念して始まり、今年で22回を迎えた大会です。参加者は地元の小中高生が大半を占めます。コースは布目ダムの上流の副ダム周辺の3kmのコースを1周する3km走と5周する15km駅伝、15kmマラソンの種目があります。今回も15kmマラソンに出場いたしましたが、水機構からは地元木津川ダム総合管理所、布目ダム管理所から3チームが駅伝大会、3km走に2名がエントリーしています。

大会は午前10時から一般・中学生、小学生の高学年、中学年、低学年の年齢の高い順に2分ごとにスタートしていきます。一般には地元高校生も学校行事として混じっていますが、ちんたら走るやる気のない高校生は後から走ってくる元気な小学生に抜かれ、ばつが悪そうにゴールしています。小学生は大人を抜いた満足感も加わり、笑顔でゴールしています。元気にゴールする子供達のみなざるパワーには寒さも吹き飛びます。そんな痛快な光景を目の当たりにして、いよいよ15km走です。布目ダムマラソンでは15km駅伝と15kmマラソンが同時にスタートします。駅伝ランナー、マラソンランナーが入り乱れスタートとなりますが、ランナーの数も少なく1周しないうちにばらけてきます。木津総チームのうちの1チームは最初から飛ばしていますが、S所長のチームは私と第三走者まで良い勝負です。布目ダムチームは少し遅れています。駅伝にはファミリーという部門もあり、三週目くらいで小学生に抜かれるというショッキングな出来事もありました。小学生には負けられまいと頑張るのですが追いつけません。4週目、5週目にさしかかると競技を終え、会場を離れる子供やそのご家族の方々の応援をいただき何とかゴールです。残念だったことはゴール後に地元名産品コーナーで五平餅を食べたかったのですが、数分前に完売していたこと、来年こそは完売の前にゴールすることを誓い岐路につきました。

何よりも子供達の元気な姿に励まされ、子供達の笑顔に満ちあふれた大会です。地元が無くてはならない大会であると強く感じました。

(ダムを走る男)



小学生の元気なスタート



食べたかった五平餅です。



木津総チームと記念写真

## 7. 『仕事への取り組み方等のキャッチフレーズ（関西いろはカルタ）』のご紹介

第一次南極越冬隊長などを歴任した西堀榮三郎博士らが選んだ創作ことわざ「西堀かるた」があります。それは、ユーモアと示唆に富み、その面白さと生活に“希望を与え、決心を促し、人生を楽しくする”西堀かるたは近年賛同者が増えています。水資源機構関西支社でも、「西堀かるた」に倣い、国民や利水者の皆様からの更なる信頼を得て、より強い組織づくりを図るため、職員一人ひとりの仕事への取り組み方、定時退庁の呼び掛けや心構え等も含めた日頃の業務の指標として、「関西いろはカルタ」を平成23年度に作成いたしました。

関西管内の事業所で取りまとめた『仕事への取り組み方等のキャッチフレーズ（関西いろはカルタ）』を紹介いたします。



次回は、『ふ』、『こ』、『え』です。

## 編集後記

新年、あけましておめでとうございます。

旧年中は、「水レター」をご愛読いただき、誠にありがとうございました。

近年は全国各地で大きな出水や世界規模で見れば渇水も生じておりますが、昨年は、全国的には、一時的に渇水傾向に見舞われたものの、大過のない1年ではなかったでしょうか。しかしながら、東北地方では今もなお地震の爪痕が残っており、一日も早い復興を祈るばかりです。

水資源機構をめぐる状況としては、独立行政法人改革が先の国会において審議されておりましたが、国会の解散に伴い、独立行政法人通則法の一部を改正する法律案（第180回通常国会提出）が廃案となりました。しかしながら、独立行政法人を取り巻く厳しい状況には変わりはありません。今後、現政権においても予断なく、改革が進められ、一層の合理化も考えられますが、今後とも建設事業の進捗と洪水や渇水に対する的確な管理に努めてまいります。

「水レター」では、水資源機構からの情報配信はもとより、利水者や水源地域の情報についても、素早い情報提供に努めてまいります。今年1年、引き続き、ご愛読いただきますようお願いいたします。

本年も皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



平成25年1月  
水レター編集委員長

編集委員

今井 敬三  
竹村 尚康  
尾西 昭彦  
生田 正道  
山下 多津見  
長 博毅  
遠山 裕平  
石井 小百合



水資源機構ツイッター

[http://twitter.com/jwa\\_PR](http://twitter.com/jwa_PR)

水資源機構関西支社

<http://www.water.go.jp/kansai/kansai>

水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望・意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡ください。（耳寄りな情報もお待ちしております。）

mailto:w-kansai@msg.biglobe.ne.jp